

■令和5年度第5回高田地域まちなかにぎわい創出協議会 開催記録

日 時 : 令和6年3月 18 日(月) 18:30～20:30

場 所 : 会津美里町役場 2階 大会議室

出席者: 9 名 / 18 名

事務局: 4名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

(委員長)

今回で第 5 回目ということで、今年度最後の協議会となる。今年度のまとめ、そして来年度に向けての方針の決定ということで、皆さんにご審議いただきたい。

3. 町長あいさつ

(町長)

この協議会立ち上げからもう5回目ということで、こういった時間帯、皆さん仕事終わりのところ毎回参加していただき、心から感謝申し上げる。

また、アンケートも2回実施し、町長にも出席していただき、町長の考えも聞きたいという皆さんからのご希望があったため、この後皆さんからのご意見とか私からの思いなどを話させていただきたい。どうぞよろしくお願いします。

4. 前回までの振り返りと本日流れ

・第2回アンケート結果、分析

(事務局)

第 4 回の協議会、12 月 7 日からだいぶ時間が空いてしまい、大変申し訳ない。

その間に第2回目のアンケートを実施したり、会場の都合もあり今回の時期となってしまった。

間が空いてしまったため、令和5年度の振り返りを行い、第 2 回アンケートの分析を行わせていただく。また、杉山町長への質疑応答の時間も設けるのでその際にご意見をお願いします。

◆1ページ: 令和5年度の歩み

今年度の協議会は本日含めて5回開催。1回目は 7 月 14 日で、顔合わせや情報・課題共有を行った。なぜこのにぎわいが必要か、なぜこの協議会を立ち上げたのかというところを説明。また、住民の方々がにぎわいについてどう思っているのかを把握するために第1回目のアンケートを8月に実施。1,000 人にアンケートを行い、回答率は 33%であった。その中で住民の意識、にぎわいは必要なのかという項目で、7割以上の方がにぎわいは必要だと回答。どのようなにぎわいが必要かという質問に対して、飲食店や買い物できる場所、観光客、住民のコミュニティといった回答があった。

それを実現させるためには、物産の強化や飲食店・カフェなどがあつた方がいいという要望が多くあつた。ただ、全部を叶えることは難しいため、絞る必要があるということで住民の方向けにワークショップを2回実施した。その中で町内に戻ってきた 30 代男性から、「この町には家族や友人と思ひ出を作る場所がない。」という切実な意見があつた。

ワークショップを経て、具体的にどのようにしていけばよいかということで、3回目の協議会を 10 月 26 日に開催。ワークショップで出た意見を具現化したいくためにはどうしたらいいのかということグループワークで話し合いを行った。ターゲットはどうするかというところで、この町で新しくチャレンジする人や、今から成長していく人材としての学生をターゲットに。キャッチフレーズとしては、挑戦しやすい場所や使い勝手のいい町、新しい商店街、楽しい商店街、元気がもらえる商店街、自然と調和した商店街、みんながプレーヤーになる商店街といった意見があり、全部を我が事として進めていく町であってほしいという話し合いを行った。

11 月には、もっと若い世代からの要望を聞いた方がいいという一定の委員の要望もあつたため、会津西陵高校生の協力を得て、オンラインでのアンケートを実施。回答率は 55% で、この町に対してどう思っているかお聞きしたところ、「この町には高校生の居場所がない。」「高校と駅の往復しかない。」「この町に想いや、それを思う場所がない。」といった切実な意見があつた。

それを受け、4回目の協議会を 12 月 7 日に開催し、西陵高校生のアンケート分析を行い、若い世代も居場所を求めているということを確認した。また、先進事例として国見町のあかりという施設や、〇〇市の動画を見て、こうなって欲しいという具体的なたたき台というか、イメージを共有して皆さんで話し合いを行った。

そして、町民の方々にどういう内容のアンケートを実施するかということで、委員の皆様にお聞きし、上位3つ〜4つを絞り、2月に町民向けに第2回目のアンケートを実施した。その結果が3ページから後ろに載っているアンケートになる。

◆3ページ〜:第2回アンケート結果

第1回目より内容を絞り、設問も3つから1つにして町民の意見を絞りやすく、分かりやすくした。

問4:にぎわいは必要だと8割の方が回答。

問4具体的にどの場所ににぎわいが必要か?:全体としては、伊佐須美神社の門前通り横丁周辺が3割超え。40代以下は大通り中心が30%以上、50代以上は34%。50代以上の回答が高いので、そちらに引張られる形にはなるが、町民の方の3割はやはり伊佐須美神社、第2として大通り中心であり、我々が今まで話してきたエリアのにぎわいが必要だというふうに思っていることが分かつた。

問6(次のコンセプトとして必要なのはどれか):昼は高齢者、夕方は学生、夜は学生、週末は世代間交流で、趣味や娯楽を楽しむチームサードプレイスが28%で一番多い結果に。

サードプレイスっていうのは、まず人が大事にしている場所が学校や職場とか家庭で、そのほかにもう1つ自分が素を出せる場所、第3の場所という意味の場所のことである。第2位にチャレンジショップストリート、第3位に物販や飲食といったところでマルシェのようなイベントができるような空間にしてほしいという意見があつた。方針の作成もこの3つに絞るかという話にもなるが、複合的にできる

ようになれば、多くの人の要望を満たせるのではないかと考える。

問7(公民館跡地はどのようにしたらよいか):第1位がマルシェができる全天候型のイベント広場で、遊具など子供の遊び場や、トイレ・駐車場が完備していてイベントなどができるのが良いとのこと。

第2位が同率で、災害時のコンテナハウスやトレーラーハウス、ファーマーズマーケット(物産)直売所のようなもの、飲食店という意見が。また、運動施設も17%あり、一定のニーズがある。

問8(にぎわいを創り出すのに必要なもの):第1位が駐車場が近くにあって停めやすい駐車場が欲しい。第2位が綺麗なトイレということで、外向きのトイレ、赤ちゃんや障がい者などが使えるトイレの整備をしてほしいという意見があった。

8ページ以降は自由意見で、様々な想いを記入していただいた。こうあって欲しいとたくさん書いてあるのは、やっぱりこのエリアこの施設に対する期待が高いからだと思う。

・本日の目標 方針の決定

(事務局)

これに対する案を皆さんからいただいて最終的に今年度の方針案を決めていきたい。

そして、委員の皆さんからぜひ町長に意見を聞いてみたいという要望があったので、まずは町長からどのように思っているのか説明をお願いしたい。

(町長)

それでは私からご説明させていただく。この協議会を立ち上げるにあたり、私もこのまちなかを何もしないでいてはしょうがないだろうということで、皆さんに集まっていただいて協議会を立ち上げて、皆さんの意見などをお聞きしたいということでこの協議会に立ち会わせていただいた。

アンケートの意見を見ると、何で高田ばかりなんだなどの意見がありますが、これが終わったら本郷のにぎわいに入っていきます。新鶴地域は商店街がないため、別な意味で高田・本郷・新鶴と合併して、それぞれ地域の特性があるので、その地域に合ったにぎわいの出し方をやっていきたいと考えている。

その中で高田地域のにぎわいってというのは、やっぱり人がいないところ、にぎわいのないところでなかなか発展は難しいと思う。お祭りもだが、やっぱり人の多いところに行くと、何となくわくわくするという思いは誰もがするのではないかなと思う。皆さんの意見を聞くと、やっぱり小さい子供からお年寄りまで居場所は欲しいというアンケートが多かったよう。マルシェを去年2回開催した際に、「こんなにこの通りを歩いているのは何十年ぶりだろう」というような声を聞いたり、やっぱりわくわくするか、いいなという声もお聞きしました。やはりそういったことでにぎわいを取り戻していくということも一つだと思う。

その中で残念なことに、今まちなかで 100 人以上集まって宴会というか例えば祝賀会とか、前はは一とびあ2階で行っていたが、そういった場所もなくなってしまった。今は若松市内に行くしかないような状況であり、町としても困ったなというところである。

やっぱり作るのだとすれば、そういった機能も兼ね備えた子供からお年寄りまで誰かしら行くとあそこにはいるよってというような環境をつくることもよいと思う。

これから色々と煮詰めていった中で、どういうものかいいのかっていうのはこの協議会を通して、良い意見を出していただいて、未来に繋がるものを建てるものであればやってみたいなと考えている。にぎわいができることは一番なので、皆さんの意見を参考にこれから町としていろいろ計画作りをしていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いします。

あと、伊佐須美神社の修繕という意見もあり、2030年までには本殿を造るということであるが、やはり多くの参拝者がいるので伊佐須美神社周辺も何か考えていけないと考えている。前々から道の駅を建ててくれと言われているが、道の駅はなかなか交通量も関係してくるので、美里町に道の駅は難しいところである。

(委員)

アンケートの結果を見て、やはり我々が最初に集まって話したようににぎわいが何なのか分かっていない状態でのアンケートになっているのだろうなというところが感じ取れた。

あと、なぜまちなかだけなんだといった意見もあり、最初の段階の理解がないまま回答している方が大変多いので、自由意見がばらついていて絞れていないような回答が多く、集計するのはすごく難しいなと感じた。その中で、町長から話があったようにまちなかをどこに絞るのか、人を集めるというにぎわい、人を集めるにぎわいと外貨を稼ぐにぎわいと住む賑わいとやっぱり我々もまだ絞り切れていないところはあるのかと思う。

伊佐須美神社から手をつけていくのか、もう伊佐須美神社も公民館跡地も一斉にやるのかまちなかも一斉にやるのかどんなふうな手順でやろうかなというのは、高田地域をやってみてモデルになって、本郷・新鶴と続いていくと思うが、どのような感じでにぎわいを考えていらっしゃるのか？

(町長)

今、お話したとおりやっぱり実際にやってみないと分からないところもあると思う。マルシェもそうだが、マルシェは他の地域からも人が来ていた。これを毎日行うのは無理だと思うが、そこからだとは思いますが、例えば公民館跡地に何かできれば、きっかけ作りというかそういうことがにぎわいに繋がってくるのかと思う。まずは会津美里町っていうものを知ってもらっていうところからスタートするところもあるのかなと。そういうことができれば、いろんな人と話もするし、そうかっていう発見もあったりするんでそうゆうのが大事なのかなと。私自身、ここに生まれてから住んでいてもそんなことあるのっていう発見もあり、やっぱりそういうのって人との会話であったり、違う人との会話だったり人を介しての会話だったりでないとなかなか出てこないと思う。

(委員)

アンケートを読んでいても、箱物は作らなくていいとか、お金があつて初めて物を作るのか、人がぼちぼち集まってきたから物を作るのかみたいなアンケートもちらほらと見えた。この辺どこまで、卵が先がひよこが先かみたいな話になるが、お金を生み出すまで待つのか、企業を誘致しろみたいな

のがあってバックに大きな企業がついて、お金が入るようになってからそういうものに手をつけたらいいのではという反面、意見が多いのは、子育てとか子育てしやすい環境とか、人が落ち着いて暮らせる環境っていうのも結構捨てがたい意見ではあるのかと見て感じた。

皆さん具体的に書かれないので、どんな環境がその人にとって子育てしやすいのかが分からないので、このアンケートをもう一度精査しないと本当の町民の意見は出てこないと思う。

このアンケートは無造作に 1,000 人であったか・・・？

(事務局)

高田地域、本郷地域、新鶴地域の人口比率で割り、そして各世代に配布を行った。オンラインでも今回返してもらってものが 100 通ぐらいあった。

(委員)

アンケートの回収率 33% っていうのは決して低くないとおっしゃっていた。

(学識経験者)

普通以上に高い回答率である。普通にやろうとすると 1 割いくといいぐらいなので。もしオンラインがなかったとしても、20% ぐらいなのでいいほう。今回自由意見があったように、そういう項目があった時点で答えないという人もいる中でのこの回答率なので、回収はできているほう。

(事務局)

このアンケートの回答でいただいた意見をどういうふうに活かしていくのかってところは難しいところなので、町長がおっしゃるように、全部を一気にやるのは無理だと思うので、段階的にできるところからやっていくつもりではいる。これからの話し合いにはなるが、伊佐須美からやるのか、公民館跡地からやるのか、具体的にはどのような建物を建てていくのか、そういうところを来年度からの実施計画に活かして、それを目標数値にして、いついつまでに通知して何かをやりましょうとかを決めていきたいと思っている。

(委員)

第 1 回目の時に、にぎわいの捉え方はすごく迷った。にぎわいの捉え方っていうのが、要するに観光客を連れてきてその観光客の方に伊佐須美神社とか、駅前の通りとかを歩いてもらうことによって、そのにぎわいという解釈でいた。しかし、今回のアンケートの内容を見ると、にぎわいっていうのは高田地域に住む人々の満足感を上げて、そして地域の活性化を図って、そして周囲からも高田に住みたいという人を呼び込むのがいいのではないかなと思う。

今回のアンケート結果からすると、地元の住民が住んでで楽しい、満足感が高い、それを聞いて周りの人々が来るように公民館跡地にそういう施設を造り、マルシェを開催することが一つになるのかなとは。あとは、先ほど町長さんが言われたように、伊佐須美神社に来る方々、伊佐須美神社だけ

で足りなければ大内部落、会津若松市、それから博士トンネルができたので昭和村からなど、他の地域を呼び込んで公民館跡地とかマルシェとかと連動することによってのにぎわいを考えた方がいいのかなと思う。自分なりの解釈であるが、人の満足感で人を活性化させるのか、他の地域から人を呼び込むのか、これは別々に考えるのではなく2つとも並行して行っていく必要がある。

(事務局)

町長がおっしゃっていたとおり、できることを段階的に行って最終的には移住者を増やすということが人口減少対策の最後のところだと思うが、そのためには公民館跡地に住民の満足が得られるものを整備することと、伊佐須美神社のところも観光客が来て喜んでもらえるような物産系のなにかをつくるなどは、段階的に分けて行っていくことが必要だと思う。

(委員)

最近悲しく思ったのは、この前本郷で会議があつて本郷生涯学習センターに行ったのだが、改装されていて、こんなところ高田にあったのかなと思うくらい2階の施設がいいなと思った。

あのぐらいのものを公民館跡地につくるとなると、高田はこのじげんプラザがあるのでなかなかそうはいかないと思うが。じげんプラザは公の会議、公民館跡地には飲み会とかカフェとか気楽に使えるような施設があればいいのかなと思う。そうすれば両立できるのかなとは。

(町長)

このじげんプラザは複合施設で半分は公民館施設。いろいろな方が来て、高校生も学校が終わってから話していたり、大人の方々が打合せを行っていたり非常にいいなとは思っている。ただ、会津美里町、高田地域は広いので皆さん全員がここに来れる状況ではない。生涯学習センターがそれぞれ各地区にあったのがなくなって、じげんプラザは遠いとか足がないとかいろいろ問題があると思う。なので、近くに集える場所があればいいのかなと私も思う。

(委員)

皆さんの話を聞いていて思ったのだが、アンケートに結構書かれているのがカフェとか綺麗なトイレとかが欲しいと、結局は新しいお店が皆さん欲しがっている。けど、今年度残念なことに商売辞められてしまったお店もあつて、やっぱりどんどんお店は減っているし、だけど皆さんはお店が欲しいと思っていて、チャレンジショップとかいろいろなお店が来てほしいなとは思いますが、手放して誰かやってといったところでなかなかやれるかってなったらそうでもないと思う。なので、そのためのスペースを作って誰かにお店をやってと言ってもそんなにたくさんは来ないと思うし、わざわざ公民館跡地の広いところをそれに使い果たすのも勿体ないと思う。それだったら、商店街の売家・貸家を綺麗にしてチャレンジショップとかいろいろなお店が入れるようにして、もっと大きくまとまってあつた方がよいものを公民館跡地に持って行った方が現実的であると思う。

(事務局)

その通りだと思う。チャレンジショップはやはり採算が取れるのかというところもある。人が来るような仕組みと組み合わせることが大事。黙っていても人が来る集客装置になるように。放課後の児童館や飲食店、高齢者教室など、なにかとなにかを組み合わせで足し算じゃなくて掛け算にしていってというのが必要なのかなと思うので、そこはこれからの施策のやり方などでカバーしていきたい。

(委員)

そういえば、岩手県盛岡市のある地域で毎月マルシェを開催している商店街があつて、これまで車でダイレクトにお店に行っていた方たちも街の中を歩く機会ができ、ここにこんなお店があつたんだ、気付かなかつたという方も結構いたり、次買う時ここで買おうとなったり、毎月マルシェをやっているから毎月行ったら何か面白いものがあるとだんだん周りから人が集まるようになったという話がある。たまにあるマルシェもとてもいいが、定例化していくっていうのもいいなと思った。

(事務局)

マルシェも定例化していきたいとは思っているが、ただ主催する人は疲れないようにっていうのがポイントになってくる。主催者に集中しすぎてその人たちが疲弊しないように、代わりながら行うとかそういう配慮も必要になると思う。あとは、環境の整備、トイレや駐車場などの整備を並行して行っていくことで定例化していけるのではと思う。

町長に直接聞きたいことはあるか？

(委員)

実際、高田の商店街は新たな商店街に生まれ変わらせた方が早い部分もあると思うが、そうすると個人の力だけではうまくいかない部分ってたくさんあると思うが、そういった点で町としてはどう考えているのか。

(町長)

高田の商店街は個人個人で経営しているところなので、行政で助けるっていうのはできるがなかなか難しいところもある。〇〇〇〇～

若松の七日町通りもそうである。最初はそんなことやったってという話もあり、今の人の流れができるようになって10年以上かかっている。市は外観とかにお金を出したり、電柱を支柱化したりで支援をしていた。

七日町通りをそのままこの高田に持ってきてくれるかという、なかなかそれは難しいと思う。なので、マルシェが一番いい例なのでは。月1回できればそれだけの人の流れができてきてにぎわいに繋がっていくのではないかな。今の商店街の中でにぎわいを作っていくというのはなかなか今の現状では難しいのではないかな。ただ、何もしないでいてはどんどん寂れていってしまうので、マルシェなどを開催しながら、商店街の人たちに何が発案をしていただき、そこから何か生まれればいいなと思う。

その仕掛けはやはり行政側で多少やらないといけない。

(委員)

維持をするということはすごく大変なこと。何をやっても維持をするのに行政がやってくれること、町民がやらなくてはいけないことっていうのがある。そうすると商店街の中で、空き家をチャレンジショップとして使えるようにするには、私たち町民がやらなくてはならないのか、役場の方たちの力でやってくれるのかによって全然違ってくと思う。役場の役目、町民の役目をきちんと持たないと全部がバラバラになってしまうと思う。本当に私たちが商店街を賑わせてほしいと思っているのは、昔のイメージがあって昔はこうだったよなという想いを持っているから。ただ、今の商店街をもっと賑わやかせる力があるかっていうとない。それこそ後継者問題もあれば、あそこの店舗を居抜きで誰かに貸してあげるかっていうとそうでもなくて、どうしたらいいかっていうことを考えなくてはならない。

商店街の人たちがどういう賑わいを求めているかっていうと、私には分からない。私なんかは今の状況を維持していくのが精一杯だなと思う。それと、伊佐須美神社の周辺については、伊佐須美神社の考えも必要なことで、そこをきちんとしないとうまくいかないと思う。いくら伊佐須美神社の周辺ににぎわいを作ったとしても、伊佐須美神社さんは伊佐須美神社さんで参拝に来たお客さんをまちなかに入れていきたいと言っているが、逆に私は町の人たちが伊佐須美神社にもっともっと足を運ぶようになったらもっと楽しいまちになるんじゃないかと思う。お社の中に子供の声が聞こえたり、そういうものにぎわいの一つだと思う。なので、にぎわっているところから人を呼ぶのではなくて、そのにぎわいに自分たちも混ざるっていうのも一つ。あと、綺麗なトイレの整備といっても作ったらそれでいいではなくて、その維持はそうするのかまで考える必要がある。

アンケートでこういう風がいいなっていう夢がたくさんあるが、その夢をどうすれば叶えられるかは、現実問題と照らし合わせていかなければ実現するのは難しい。なので、やはり町長さんには役場でできることはこれです、こういうことは町民の方でちょっと力を貸してくれませんかと思っていた方が、こちらもここまでは町長さんに訴えていいんだな、この部分はだめなんだなって分かる。この「まちなかにぎわい」というネーミングも難しく考えてしまうのかなと思っている。まちなかを元気にするプロジェクトとかが良かったのかなって。にぎわいにぎわいてやるからみんなが迷ってしまって逆に難しくしているのかなと思う。

(町長)

例えば、言ってもらわないと分からないことってあるんですよね。なので、何度も問いかけていただいて、それに対して町は会議を開くし、できないものはできないとはっきり言うようにしている。ただ、少し工夫すればできますよっていうのは時間がかかるかもしれないがある。濁す回答は町民の方が一番困ると思うので、できるものはできますよ、できないものははっきり理由をつけて返すようにしている。

(委員)

こういう会議でもない限り意見って言えないので、電話くださいって言われても難しいと思う。

(町長)

なかなか何でも言ってくださいねと言ってもなかなか言えないものなのは承知している。

なので、そこはやっぱり町民の方々が話しやすい環境を発信していきたい。

(委員)

まちなかにぎわいっていうのはなかなか難しい。美里町自体いろいろなものが点在しすぎているのかなと思う。若松の総合運動公園だったら公園の敷地内にずらっといろいろなものがある。例えばこの複合施設の周りに大きい公園を造るなり、花を植えたり、三ノ倉はひまわりだけでも人は集まるし。やはり人が来ないことには多分まちなかは潤わないし、普通のイベントを開催するだけではだめだと思う。あとは、噴水みたいな子供たちが一日遊べる場所を造れば自然と町に人が流れてくるのかなと。まちなかを潤すためには同じエリア内にいろいろなものがあればにぎやかになるのではないかなと思う。あまりにも美里町はいろいろなものが離れているのでにぎわいがなかなか生まれない。子供が遊べる施設があれば、親御さんも来るし、夏の暑い日にそれこそ美里町は水がいいので、水を活用した水路で子供を遊ばせるなりいろいろな方法があるのかなと思う。そういうのがきっかけにまちなかがにぎやかになってくるのかなと。

(町長)

高田本郷新鶴それぞれの特徴を持ってそこでにぎわいが出てきて、それが高田に行ったり本郷に行ったり新鶴に行ったりそういうふうな仕掛けしていきたいと思う。

(委員)

皆さんからいろいろな意見をお聞きしている中で、アンケートにもあるように高田＝伊佐須美神社というイメージがあるが、伊佐須美神社会館の入口が非常に怖いというところが非常に勿体ない。あそこでトイレ休憩してもらい、飲食休憩してもらいなどに活用し、にぎわいを広げていく形がいいのではと思う。神社で栄えている市町村は県内にもいくつかある。

景観が非常に暗く近寄りたがたい雰囲気があるのでまずはそこを改善する必要があるのでは。

(町長)

本社殿をまずは建てて、計画的に壊すもの造るものを作っていくという考え方もある。やはり伊佐須美神社にはある程度の人 coming しているため、町としてできることを考えていきたい。

(委員)

公民館跡地については、それこそ皆さんマルシェという意見が多いのであれば無理に手を入れな

くても、あのままにしておいてそれこそ月1回マルシェを開催して、出店者から500円ずつ場所代を取るとか、そういった形でもいいので必ずお金をかけなくてはならないではなく、まず人を呼び込むとことであれば、イベントができる場所にするといい形でもないかと思う。

若者が集まるなら駅前、公民館跡地ではマルシェ、観光のメインは伊佐須美神社にするという形でポイントポイントで絞っていくのもいいのではないか。

(委員)

高田は歴史の町であるということで、地元の人も他から来る人もまずは伊佐須美神社。ただ、伊佐須美神社だけではやはり特に地元の方々は飽きるだろうから、そうすると公民館跡地かなと。公民館跡地に地元の方も他の方も見て楽しめるような、例えば天海大僧正資料館とか、子供も本郷新鶴から集まってくるような子育て支援とか、マルシェなどを開催すれば地元の方々も集まりそれが波及効果となり、商店街にも流れていくのかなと。どこかに起爆剤になるようなものをつくってそれを散らすという形がいいのでは。

あとは、高田駅前周辺の活性化も必要になってくるのではないかと。例えばあの辺広場があるので、イベントをやるとか、只見線も再開通しているので駅前周辺の活性化なんかも考えてもらえるといいのかなと思う。御田植祭もあの周辺でやるわけだから、高田駅周辺の活性化は外せないのでは。

(事務局)

高校生は駅舎が小さくて、雨の日は雨に当たりながら待っていたりすると言っていたり、トイレが怖くて女の子は使えないと言っている。

(委員)

それこそさっき言っていた綺麗なトイレ。

(事務局)

そういう要望が出ているが、なかなか手が出せないところである。駅舎の活用として、駅と一緒に郵便局に入っていたり、酒蔵が入っていたりして、そういうところも考えていこうかなと思っているが、全部は手が出せないのでポイントを絞りながらと思う。

(委員)

そして今年参加してずっと思っていたのは、先ほども話があったように後継者とか、地域で協力できる方々は少なくなっている。だんだん人も減っていくので、今回の会議で出されたことをできるだけ早く叩いて早く実行してもらいたい。

(委員)

伊佐須美神社の話が出たが、伊佐須美神社にもいろいろな構想がある。いろいろと考えているみ

たいなので、きちんと聞いてから町と折り合いをつけないと町だけが一生懸命伊佐須美神社を使つてと言っているが、伊佐須美神社は伊佐須美神社でこういう風にしたいという想いがあるので。

(委員)

皆さんの話を聞いて、同じような考え方かなと思うが、実際ににぎわいは町民のにぎわいであつたり、他から来る方のにぎわい、両方合わさったにぎわいということになるかと思うが、公民館跡地を利用した新しいにぎわいをつくるとなるとやはりそれなりに難しいのかなと思う。やはり今一番にぎわっている伊佐須美神社に来ている方たちがどんどんまちなかに流れてくれれば一番いいのかなと思う。ただ、その人たちのニーズに合った商店街づくりをしていかないと、いくら人が来ても活性化にはつながらないと思う。そのときに商店街の人たちはもう力がなくなっているのが現状で、やはり受益者負担という考え方はもう少し難しいと思う。そうした時にやはり町の構想としてにぎわいをうまく創出していくために補助金制度とかそういうものを積極的にやっていかないと、新しい商店街にはなっていないのかなと。

あとは、伊佐須美神社と町民の繋がりが多くなり、ここの町ってすごいよなという伊佐須美神社を敬っている雰囲気が醸し出されているようなまちづくりをしていくのが一番いいのかなと。

(委員)

前に宮司さんと話をしたときに、まずは社殿を造り、社殿を造ったら周りの景観も綺麗にする。あとはいらないものは壊し、みんなが集えるような場所を作りたいとおっしゃっていて、何かの事情で勤められない方にもちょっとした仕事をやっていただけるような環境にしたいと。なので、宮司さんと話してみるといろいろな発想ができるのでいいと思う。

(事務局)

そういった話し合いも必要だと思うのでやってきたいと思う。

(委員)

にぎわいの中に商工会とか観光協会、農業の町ならではの農協だつたりも加えてなにかしらできればなど。やはり行政側と町民の間にそういう人たちが繋がっていないと、まちなかににぎわいつて生まれてこないのかなと思う。町長がおっしゃっていたように、この町ってこんなにいいんだと言える住民、住民の人の満足がないと魅力って出てこないと思う。今住んでいる子育てしている人たちが安心してこの町に来てよかったな、住んでみようかなとならないかなと思うので、まずは住んでいる人たちが満足した方がいいのかと。あとは、高校生を活かして行政の中に取り組んでいくことことも大事だと思う。若い人の意見をどんどん入れていかないと町は動かない。

あとは、今回のアンケートでまちなかだけの人、活性化させたいところの方たちはどう思っているのかを聞きたかった。

チャレンジショップっていう話もあったが、チャレンジして失敗してもいいよっていう安心感がないとチャレンジはできないので、町と共同で観光協会とか商工会でバックアップしてもらえばもう少し手を挙げる人が増えるのではないかと思う。

(事務局)

この前、電話でお店を開きたいということで問い合わせがあって伊佐須美神社の周辺で空き家ありませんかという話が合った。そういう方たちが憂いなくチャレンジできるような体制であったり、銀行とタイアップして誘致をするとかそういう施策を考えていきたい。

(委員)

皆さんがもう優秀すぎて私が言うことはほとんどないが、1回目2回目のアンケートで皆さんの意見が集約されているのかなと思う。1回目2回目のアンケートとともに割と回答している方々がいらつしゃるということなので、住民の方も何かしらの危機意識というのはあるのだろうなと感じた。もちろん意見を言うことはとても大事なことだが、実際こういう風にやりましようとなったときに、いざやれるかという話になるとそれはまた別の話になるのかなということで、どちらかというやりたいけれども、できないという方が多分多いのかと思う。

先ほど意見があったとおり、行政としてできることと、住民がやらないといけなことを分けて考えていく必要があるのかと思う。

あとは、マルシェなどを開催すると外部からの出店もあるため、外からの力を借りるということも必要になってくると思う。

(事務局)

外からの力を借りたりすることは大事だと思う。

(委員)

こないだの11月のマルシェのときも、外部から出店されている方もいたような気がしたので、そういうのも積極的に借りると、町民の方も外の地域を知る機会にもなるのかなと。

(委員)

今回ご提示いただいたビジョンの方針案、よくまとまっているなと思う。中心市街地についての方針、**①**のコミュニティサードプレイスに関しては割と内向きで、どちらかという福祉的な意味合いになってくると思うが、**②**と**③**は外からという部分もありつつ、先ほどチャレンジショップと話も出ていたが、既存の商店街を発展させようと思ってもなかなか難しいと私も思っていて、今あるところに例えば新しい居酒屋とか、花屋とかカフェとか**3**店舗くらい全然違うお店が入っていると、人の流れも変わって商店街自体ももっと空いているところに別なお店が入ってきたりとか、チャレンジしたい人に対してのフォローみたいなものをやっていくことが大事なのかなと思う。

3番の集客装置については、マルシェなどイベント、今は年に1回か2回のマルシェでは集客になっていく集客装置ではないと思うので、先ほどもあったように伊佐須美神社を中心とした商店街の雰囲気作りっていうのは大事なかなと思っていて。あとは龍興寺の国宝についてはもう少しうまく商店街とか伊佐須美神社とかと繋げると伊佐須美神社に来た人が商店街に流れて国宝も見れてとすごく広がると思うので、今後うまく繋がれたらいいなと思う。

公民館跡地については、個人的には子育て世代がうまく使えるようなスペース、箱物がいいのかどうかっていうのは別として、そういうのがいいのかなと考えている。あと、必要なサブ機能として付け加えてほしいのが井戸。先ほどの公園での水遊びという話があったが、水と親しむという意味では何か手押しのポンプであって夏場にスイカを冷やしたりとか、防災機能ももちろんだが、井戸中心に井戸端会議ができる井戸が欲しいと思う。

(事務局)

話の流れでビジョンの方針に入ってしまったているが、ビジョンについては、年間話してきたもの、アンケートをやったものをここにまとめた形となっている。これを一つに絞ってやるというわけではなく、少し幅を持たせている。複合的にできることはまとめて、コンパクト化していくことが必要だと思う。これ一つということではなくて、この中からいいものを抽出して一番効果的なところに落とししていくものにしていきたいと思う。

ビジョンの方針について意見や、町長に聞きたいことはあるか？

(委員)

さっき言ったように、私は子育て世代の人が望むものはやっぱりあった方がよいと思う。大人は自分の車でいろいろなところに行けるが、子育て世代の人は限られたところにしか行けなくて、おむつを替えられるところ、その子供が遊べる場所、安全性を考えて遊べるようなスペースがあればいいと思う。子育てしている方に優しい町、高田に行ったら安心だよなということが言えるようになってほしい。

(事務局)

そういう場所の候補地として、本郷一小跡地やあやめの湯跡地などあるが、一つでいいのかそれともそれぞれにあった方がいいのか？

(委員)

それはいろいろ予算とかあると思う。予算があればそれこそ本当にいいやつを造る、予算が限られてしまうのであれば、既存のものを使ってより良くすることも考えの一つ。

(事務局)

規模的には、市とかには敵わないので何か違ったものを、あるべき機能が合った上での他の施設

では味わえないものを美里町でできるという差別化は必要。

(委員)

量 8 量くらいあったら子供は預けられる。ちょっとだけ塩田呉服店に買い物に行きたいというときに預けておきたいときもあるわけだから、少しでもいいから預かってくれる場所があればいいのかなと。

(委員)

すくすくハウスってちょっと内向きというか、みんなが行ける感じではない。いつも使っている方が行くような場所で他のお母さんたちは遠巻きに見ている部分がある。そんなにいつも行ける場所ではなく、行くならば意を決して行かないと使えない場所になっている。

なので、屋内で暑くても寒くても遊べる場所があるといい。

(事務局)

必要なもの、最低限の施設に子育て要素も加えて考えていきたい。

この案でもって来年の実施計画をこれで固めていく方向にし、今回いただいた意見を具現化していくためにはどうしていくか、チャレンジショップを作るにはどういう計画でつくっていくかというのを分けて段階的に行っていききたい。来年度はコンサルを入れて実施していこうと思う。あとは、先進地の事例もあるので、先進地域を視察しながら取り組んでいききたいと思う。

主力になる人も外から持ってくるのか内から育てるのかということも計画の一つとして、その方が今の段階から会議に入って計画的に行っていけないと良いものにはならないので、実際に現場に立つ人、自分の利害が絡む人の話を入れながら、最初の主導は行政が必要だと思うのでそこも含めて来年度の実施計画に落としていこうと思っているのでよろしくお願いしたい。

(委員)

その時に行政がある程度主導で行って育てる、育てた人がきちんと理解をして取り組まないと意味がないので、最後まで面倒見るぐらいの覚悟でお願いしたい。

5. 協議事項

①方針(案)について、要望、修正点

(事務局)

了解した。

それでは方針については、住民の満足度を高めていくということを第1に行いたいと思う。そのためにはどうしたらいいのかというところで、集える場所とか飲食店も含め、考えていきたい。そのブースター機能として公民館跡地にいろいろなスペースを造れるような形にしたいと思う。皆さんにとってお家のようなサードプレイスができれば、にぎわい、元気がある町は戻ってくるということで 10 年間の構想をつくっていこうと思う。

(委員長)

ということで、ただいまの方針案について説明があったが、この案で進めるということによろしいか？
方針については、基本的な大きな考え方であるので、具体的に実際に進める者についてはまたいろいろと考え方があってと思うので、それはまた改めて示されるようなことになるかと思う。
基本的な考え方として、先ほど話されたように住民の満足度を高める部分をメインとして、それを各方針に繋げていくというような形で進めることになるかと思うがよろしいか？

(委員)

よい。

②次年度の流れ

(事務局)

了解した。
次年度については実施計画、具体的なものを決めていくことになると思う。委員の任意も1年になるので再度委員の募集をかけていきたい。また、委員の皆さんにもアンケートを取る予定。この方針に対してや、来年度のことについて、次年度も協力していただけるか等のアンケートになる。

(委員長)

次年度の流れについては今ほどあったが、そのような形で進めることでよいか？

(委員)

よい。

③委員全員からの感想、要望

(委員)

お疲れ様でした。
出だしがこのアンケートだったので、今までの協議とかけ離れた内容で困惑したが、また今後もよろしくお願いします。

(委員)

一番最初は、何とかしなければならぬよね、でもどうしたらいいんだろうというところがスタートだったが、やっと少しずつ何か見えてきたのかなと思う。もっとこれをより良くして、本当に実現するために形になっていけたらいいと思う。

(委員)

一年間ありがとうございました。

商店街に住んでいる者としても、さっき言ったように責任を持つというのはすごく大切なことだと思う。皆さんと話すことによって可能性はあるな、できることもあるのではないかと感じているので、役に立つことがあれば協力していきたいと思う。

(委員)

やはり一つ一つ無理のないところから広げていかないと一度では多分できないと思うので、その辺を含めてやっていけたらいいと思う。

(委員)

1 年間大変お世話になりました。

私が感じたことは、意見を言ってくださいとなってもなかなか人間自分から言えないところもあるので、こういう話し合いは非常に大事だなと思った。アンケートも継続的に続けていけばおのずと形になってくるのかなと思う。もっともっといい町になればいいなと思っている。

(委員)

昭和 40 年代、20 年代、あの頃の高田町に戻すというのはなかなか難しいと思う。だからといって今のままではだめだと思うので、なんでもゼロからつくるというのは大変難しいけれども、今あるものに手を加えてさらに良くしようとすればいたってスムーズにいくのかなと。もちろんそこには新しいものも付け加えながらという風に思うので、今の高田がこれ以上人が減ったり、にぎわいがなくなってしまわないように早く手を打っていただければと思う。

(委員)

本日で 5 回目の会議ということで、最初の頃より人数が少なく寂しい感じはしている。何回目かの時に、困惑というか、何について話していたのかずれてしまった気がするので、もう少し何について話すかを明確にして、皆さんももっと話しやすいように雰囲気作りを持っていけたら良かったのかなと思う。

6. 学識経験者より

(委員)

私のコメントは、基本的には本当にもう住民の皆さん初め、ここにいる委員の皆様の意見に集約される。

今後は誰がやるのかという体制づくりが重要になってくるし、住民の方の様々な意見も必要になってくると思う。

7. 委員長のまとめ

(委員長)

一年間大変お忙しいところご苦勞様でした。私の力不足でなかなかうまくまとめることができず申し訳なかった。

皆さんの意見、いろいろな考え方を出していただいた中で皆さん共通理解が図られたかなと思うので、また来年度の活動に繋げていきたい。

また、今回は参加者が少なく残念だが、できるだけ欠席者がいないような形で来年度の活動に繋げていければいいのかなと思う。

8. 町長より

(町長)

本当に一年間皆さんから活発な意見を出していただき感謝する。私もこの町いいねと言われるようなまちづくりを目指して町長職を就任させていただいているので、しっかりと皆様の意見を参考にしながら良いまちづくりをしていきたいと思うので、次年度も実施計画に向けて協力をお願いしたい。

9. その他

- ・委員アンケート
- ・先進地視察

10. 閉会